

第4回名寄市総合計画審議会顛末

日時：平成30年6月26日（火）18時30分～19時40分

場所：名寄市役所名寄庁舎4階 大会議室

1 開 会

中村総務部長開会

2 会長挨拶

定木会長挨拶

3 議 事

○委員よりの事前質問・意見(定木会長代読)

「地方版総合戦略」は「総合計画」の中に位置付けたほうが効率の面などから望ましいと考える。名寄市ではそのような可能性はあるか。

事務局

中期総合計画を策定するにあたり、これと一体的に、総合戦略の一部改定を行う。市の最上位計画である総合計画と、分野横断的な人口減少等対策である総合戦略の策定・推進をより効果的効率的に行う。総合計画の内容をより深化させていくこと、総合戦略に係る国の動きに機動的に対応することで本市の取組を効果的効率的に推進していく。

(1) 重点プロジェクトについて

[資料1-1、資料1-2、資料1-3、資料2-1、資料2-2及び資料4-1]

事務局

- ★資料2-1及び資料2-2を用いてデータで客観的に見た名寄市について説明
- ★資料4-1について、5月から6月にかけて分野ごとに5回に分けて市長と各団体との意見懇談会を行い、頂いたご意見・ご提言を今後の参考としてほしい旨を説明
- ★資料1-3について、総合計画（中期）の重点プロジェクト(案)について説明

○委員よりの事前質問・意見

- ①資料2-1 RESASでみる名寄市について、「販売額、雇用は直近で回復基調」とあるが、2014年からの消費税引上げ前の「駆け込み需要」の影響もあり、楽観的な見方には注意が必要ではないか。
- ②資料1-3 重点プロジェクトの経済元気化プロジェクトについて、小売り・卸の事業所数が大きく減少している。「創業・事業承継」への対応は重要かつ喫緊の課題であり、説明文に文言として残し、課題提起する事をお願いしたい。

事務局

- ①増税前のかけこみ需要とその後に反動減の動きはあるが、全国的な基調として持ち直しの動きが見られ、雇用情勢等にも表れている。しかし地方部において後継者・人手不足に陥っていることから、生産性向上や人材確保の政策を講じていくことが重要である。
- ②説明文に「事業承継の取組の支援」を挿入させて頂きたいと考えている。

(2) 主要施策の成果指標(KPI)について

事務局

★資料3-1について、主要施策の成果指標（K P I）（案）について説明

○委員よりの事前質問・意見

- ①「主要施策」I-3 情報化の推進の指標項目(KPI)のうち「個人情報の漏洩件数」の目標値を0件としているが、漏洩件数を目標値とする必要があるのか。また、「情報セキュリティ研修の開催」を定期的に行う事としてはどうか。
- ②「主要施策」I-7 効率的な行政運営のうち「外部講師導入研修への平均参加数について、自主参加としているのか。自主参加としていて参加人数が少ないなら、今後職務指定で参加させればと思う。
- ③「主要施策」II-4 地域福祉の推進のうち「名寄市保健医療福祉推進協議会の開催」、同じくII-6 障がい者福祉の推進のうち「名寄市障害者自立支援協議会の開催」について、定例開催なら目標値は掲載しなくても良いのでは。
- ④名寄市の地域包括ケアシステムの構築の促進対策としてネットワークづくりが望まれるが、ポラリスネットワークだけで十分なのか。点を線で結ぶ地域包括ケアシステム構築の推進に向けた指標項目を具体的に伺いたい。
- ⑤「主要施策」IV-1 農業・農村の振興のうち「食育に関心のある市民の割合を増やす」で、アンケート調査は名寄市民の中から一定の人数を抽出して行うのか。

事務局

- ①漏洩件数は0件であるのが当然のことであるが、市民の情報資産を確実に保護していくための分かりやすいKPIとして設定している。「情報セキュリティ研修の開催」については各年度2回の研修を行うこととしている。
- ②経験年数の浅い職員向けの研修は、職務命令として参加を義務付けている。中級以降は、各年のテーマに沿った職員のスキルアップのための研修で、自主参加としており、今後、より参加を促す方法について検討してく。
- ③定例ではなく関連計画立案や施策検討時等に適宜開催するため、「定例」の表記から「必要に応じて」と変更。
- ④地域包括ケアシステムには医療と介護、福祉や地域などの連携が重要であるため、特に医療と介護の関係機関の効率的で迅速な連携を図る必要がある。名寄市の地域包括ケアシステムの一つとして、医療介護連携情報共有ICTを構築する検討を行っている。指標設定も含め、書きぶりは検討し、次回以降説明させて頂く。
- ⑤若干説明欄を加筆し「20歳から74歳までの無作為に抽出した市民1,000名のアンケート調査において「食育に関心がある」と回答する人の割合」と変更。

○委員よりの質問・意見(当日)

- ①「主要施策」IV-1 農業・農村の振興に食育に関心のある市民の割合を増やすとあるが、ここでいう食育の定義とは何か。また、アンケート調査の対象を20歳から74歳までとした理由は何か。
- ②事前質問に対する回答として、包括ケアシステムについては医療介護連携情報共有 ICTを構築する検討を行っているとのことだが、主要施策ではどの分野に該当するか。また、どの分野でどのような検討をしていくのか。ポラリスネットワーク等の医療分野のみならず、介護分野の施策も必要と考えるので検討をお願いしたい。
- ③「主要施策」V-1 幼児教育の充実の中で、認定こども園・幼稚園の定員数及び児童数を指標としているが保育園も加えるべきではないか。

事務局

- ①定義について、乳幼児から高齢者まで世代によって食育に対する課題が異なるので、一言でこれというのは難しい。アンケートの対象については郵送回答という性質及び第2次名寄市食育推進計画策定に合わせて行ったアンケートの際の対象を踏まえて設定したが、年齢設定については検討したい。
- ②地域包括ケアシステム構築に係る手法の1つとしてICTの活用を検討しているが、現在協議中で今回提示していない。次回以降、基本計画の議論の中で具体的なものを提案していきたい。
- ③委員のご提言のとおり。検討して次回の審議会で回答したい。

4 そ の 他

事務局 次回審議会日程報告（7月6日(金) 18時30分から）

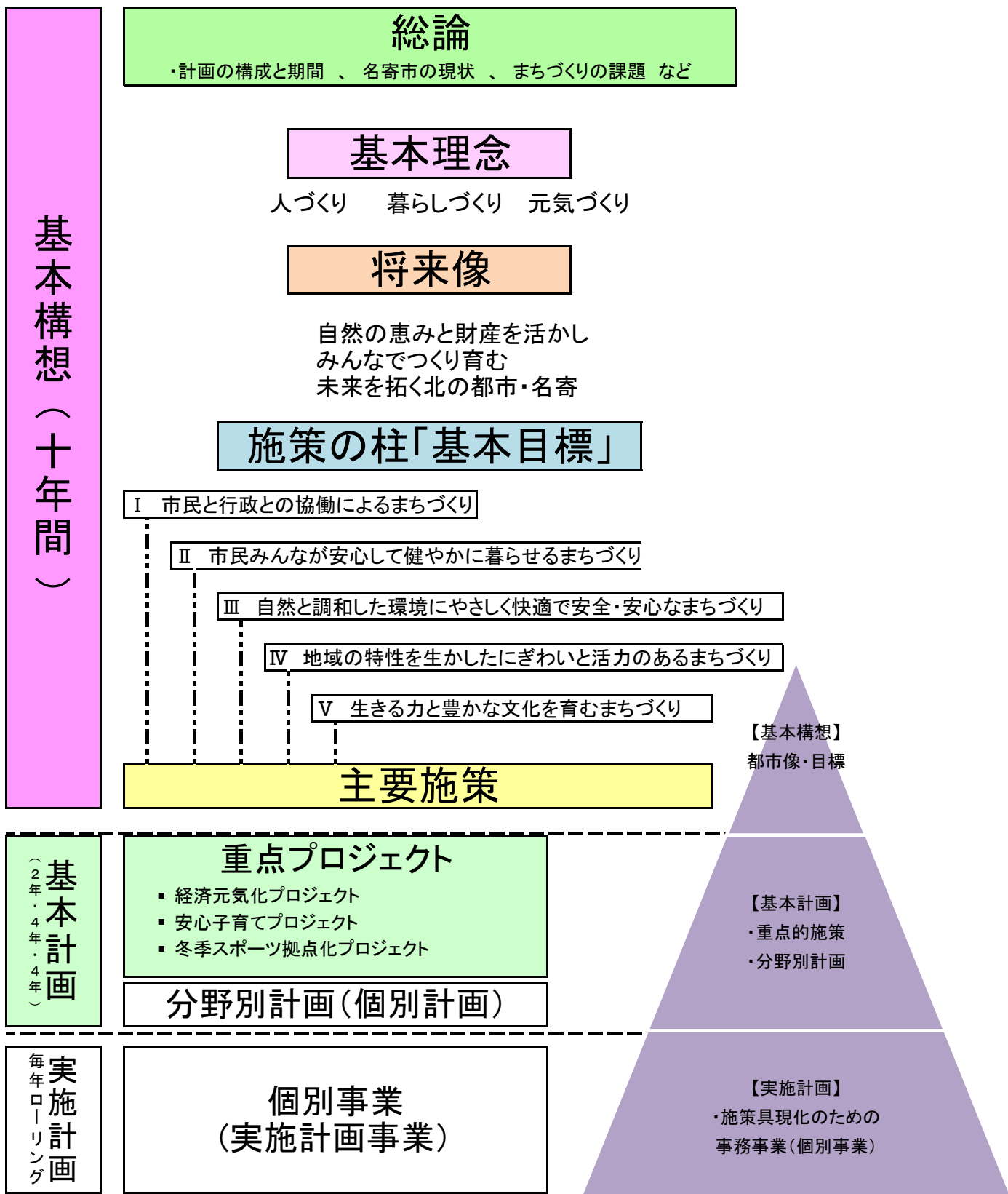
5 閉 会

定木会長閉会

[会議資料]

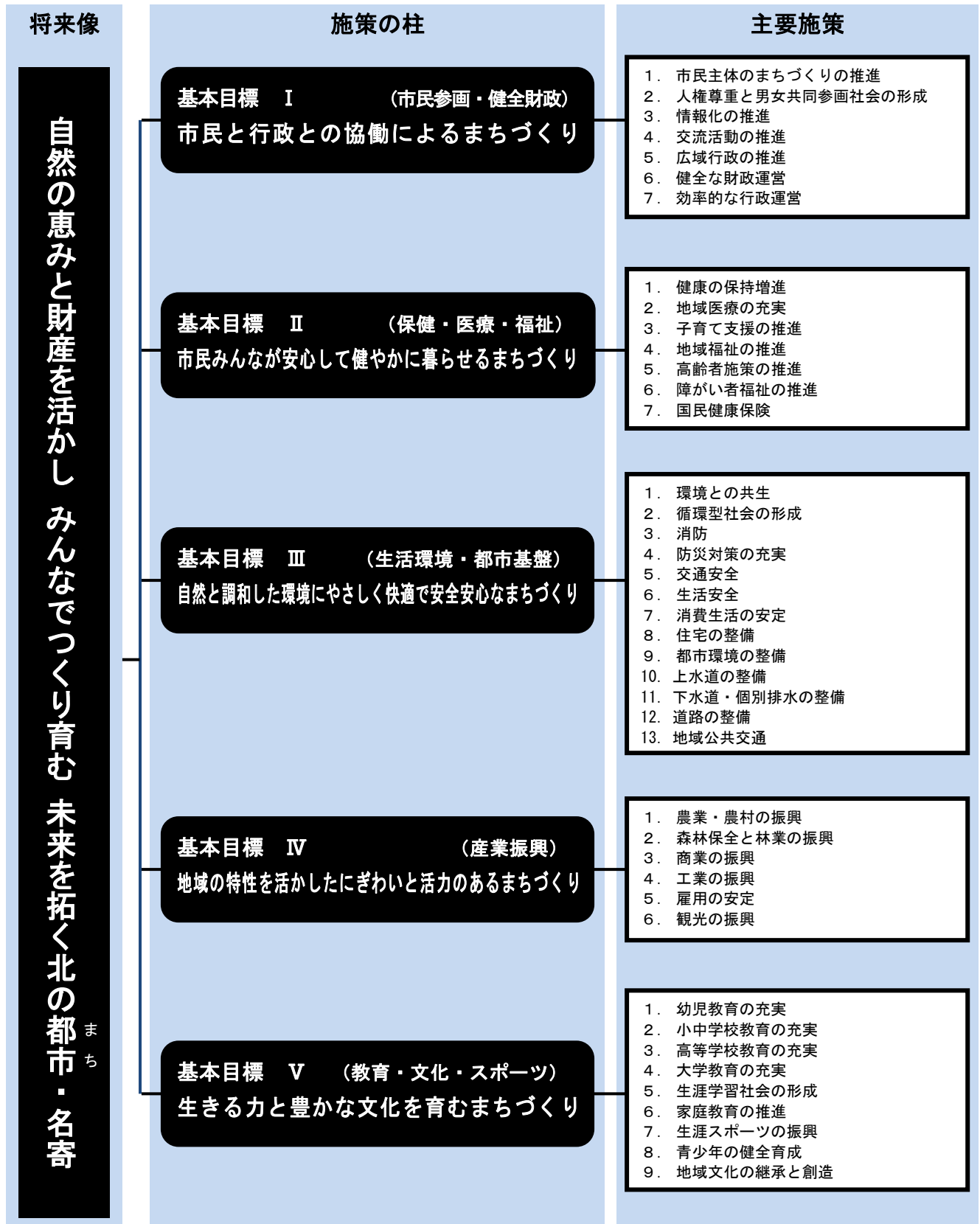
- 資料1-1 名寄市総合計画の体系
- 資料1-2 施策の体系
- 資料1-3 重点プロジェクト
- 資料2-1 RESASでみる名寄市
- 資料2-2 住みよさランキング
- 資料3-1 主要施策の成果指標(KPI)
- 資料4-1 各種団体と市長との意見懇談会でのご意見・ご提言

名寄市総合計画



施策の体系

将来像の実現に向けて、まちづくりの5つの基本目標(施策の柱)と施策の体系を次のとおり設定し、総合的かつ計画的な施策展開をします。



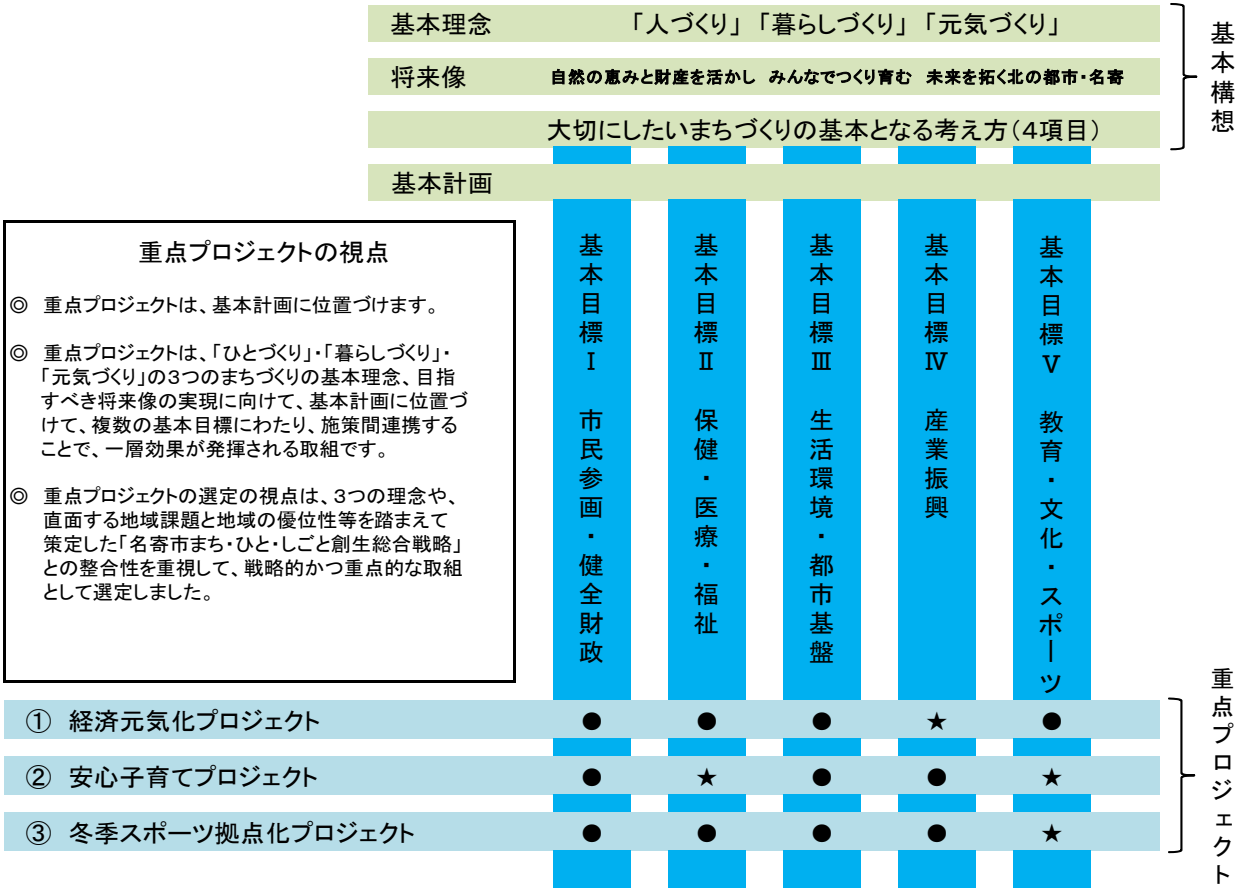
重点プロジェクト

重点プロジェクトの考え方

重点プロジェクトは、基本計画の期間内(H31～H34)における主要な取組であり、かつ複数の基本目標(施策の柱)にわたり、施策間連携を図ることで、一層効果が発揮される取組を表すものであり、限られた経営資源を計画的かつ効果的・効率的に活用し、基本構想に掲げた将来像の実現を目指していきます。

また、重点プロジェクトの選定の視点は、3つの基本理念や直面する地域課題と地域の優位性等を踏まえて策定した「名寄市まち・ひと・しごと創生総合戦略」との整合性を重視して、戦略的かつ重点的な取組として選定しました。

重点プロジェクトと基本構想及び基本計画との関係



(1) 経済元氣化プロジェクト

地域経済の好循環を図り、まちに元氣を生み出すため、新たな産業の創出や地域ブランドの確立を促進し、雇用の場・人材の確保などに努めるとともに、交流人口の拡大に向け、移住・交流の推進に取り組めます。

● 成果指標

指標項目	基準値	目標値
観光入込客数	44万6千人(H29)	61万6千人(H33)
外国人観光客宿泊数	1,096泊(H29)	1,635泊(H33)
先端設備等導入計画の認定事業者件数 ※	—	15件(H31～34累計)
新規就農者数	12人(H29)	14人(H34)
市立大学卒業生市内就業者数	7人(H29)	20人(H34)

※ 生産性向上特別措置法において固定資産税の特例措置等の支援を受けるため事業者が作成する計画。

(2) 安心子育てプロジェクト

安心して子どもを産み育てることができる環境を充実させるために、子育てと仕事の両立支援や子育て家庭への支援などを行ない、少子化対策・人口減少対策の強化に取り組めます。

● 成果指標

指標項目	基準値	目標値
待機児童数	6人(H28)	0人(H34)
ファミリー・サポート・センター事業利用者数	128人(H28)	160人(H34)
全国学力・学習状況調査全教科の結果	—	全科目全国平均以上
放課後児童クラブ登録数	274人(H29)	290人(H34)

(3) 冬季スポーツ拠点化プロジェクト

本市の自然環境・施設環境の強みを活かして、冬季スポーツの拠点化を目指すために、冬季スポーツ合宿・大会誘致と併せて、ジュニア世代の育成強化を推進するとともに、冬季スポーツを通して故郷への誇りと愛着を持てる人材の育成に取り組めます。

● 成果指標

指標項目	基準値	目標値
親子参加型スポーツイベント参加人数	0人(H28)	800人(H31～34累計)
ジュニア選手全国大会出場者人数	8人(H28)	15人(H34)
スポーツ合宿入込人数	8,081人(H29)	10,000人(H34)
全国・全道規模大会の誘致・開催数	4大会(H28)	6大会(H34)

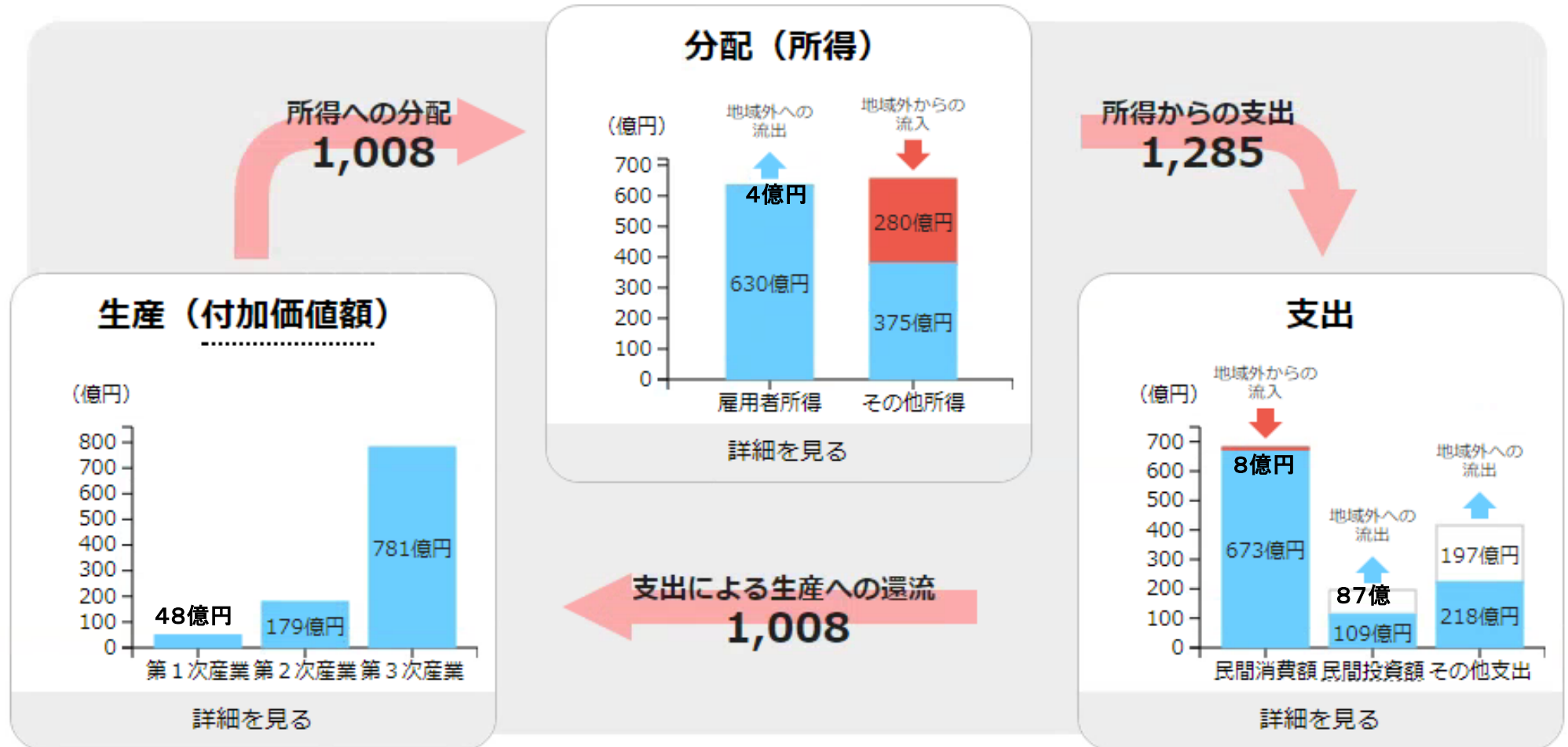
RESASでみる名寄市

名寄市総合計画審議会 事務局説明資料

※ Regional Economy Society Analyzing System : 地域経済分析システム
<http://resas.go.jp/>

名寄市 地域経済循環図(2013年)

○第3次産業中心の産業構造。圏域中心市として、雇用・消費の場となっているが、民間投資などの流出もあり、地域経済循環率は78.5%となっている(=2割程度の流出)。



【出典】

環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

1人当たり雇用者所得(2013年)

○公務員比率の高さなどから、雇用者所得の水準は比較的高い。

	1人当たり所得(万円)	順位
北海道	396	(32位)
名寄市	409	800位
士別市	322	1,517位
札幌市	421	693位
函館市	387	1,006位
旭川市	394	942位
帯広市	353	1,307位
北見市	377	1,093位
稚内市	358	1,252位
千歳市	462	379位
富良野市	355	1,291位

支出流出入率(2013年)

○民間消費についてはわずかながら「名寄市外の人が名寄で使った額」>「名寄市の人が名寄市外で使った額」。

※下川町は-48%、美深町は-0.3%

○名寄市の企業等による市外への投資はそれなりに大きい。

○その他支出(公共投資、コンサル発注など)による流出も大きいですが、道内では健闘している方か。

	民間消費	民間投資	その他支出
北海道	7.4%	-39.8%	-40.5%
名寄市	1.2%	-44.5%	-47.5%
士別市	12.3%	-51.9%	-79.5%
札幌市	5.9%	-37.1%	6.8%
函館市	21.4%	-46.8%	-58.8%
旭川市	15.5%	-46.7%	-60.1%
帯広市	26.7%	-52.5%	-65.9%
北見市	15.7%	-49.4%	-75.9%
稚内市	12.0%	-52.8%	-65.7%
千歳市	-5.4%	-34.9%	54.2%
富良野市	24.1%	-55.1%	-87.5%

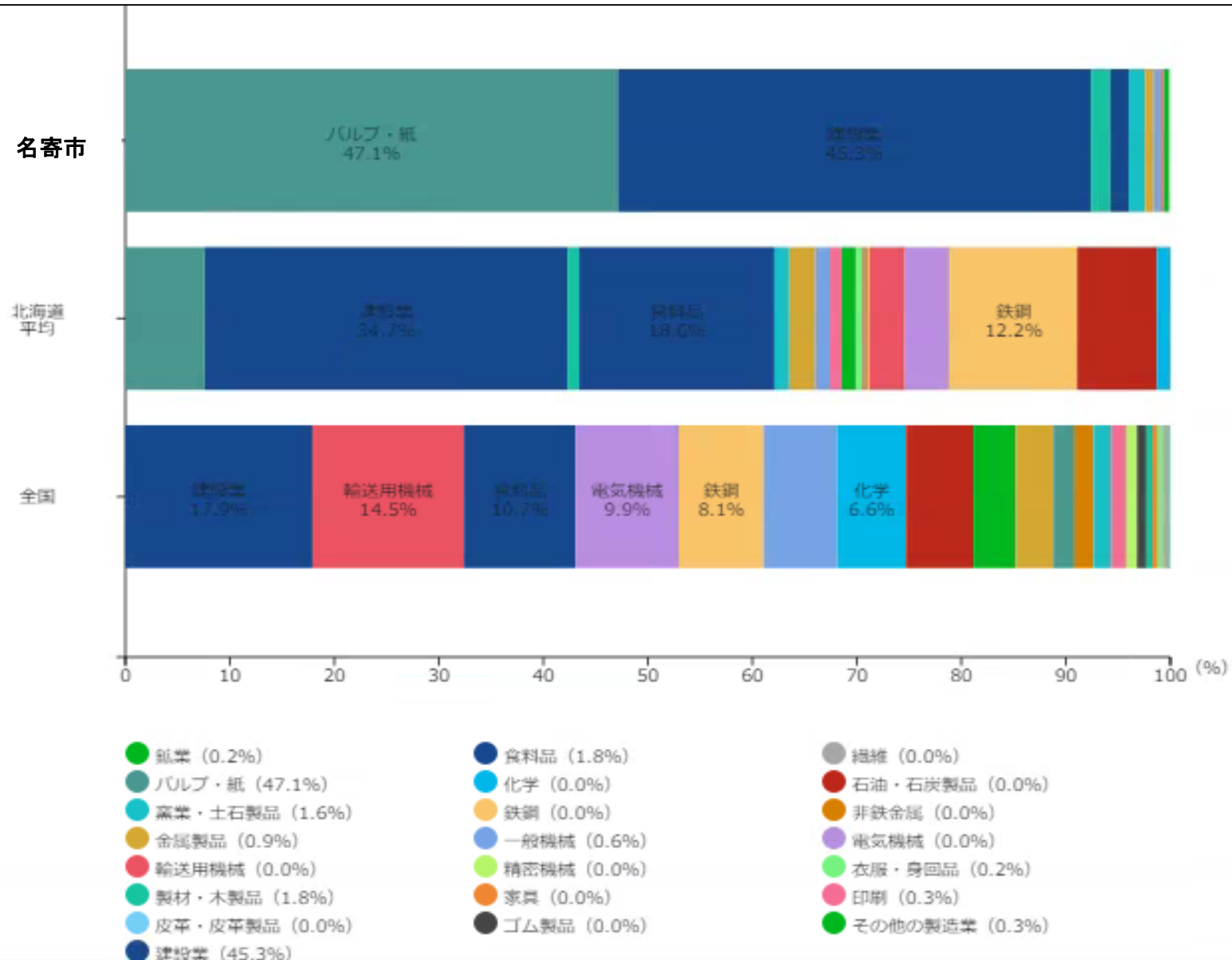
第1次産業の付加価値額及び1人当たり付加価値額(2013年)

○第1次産業の経済規模は道内では大きい方ではないが、1人当たり付加価値額では全国的に見て非常に高い水準であり、道内においても水産業のないまちとしては比較的生産性が高い。

	付加価値額(億円)	1人当たり付加価値額(万円)	順位
北海道	8,197	420	(1位)
名寄市	48	404	219位
士別市	68	405	218位
札幌市	226	430	170位
函館市	221	448	143位
旭川市	161	387	242位
帯広市	157	404	221位
北見市	154	400	227位
稚内市	68	418	197位
千歳市	65	448	142位
富良野市	80	444	146位

第2次産業の構造(2013年)

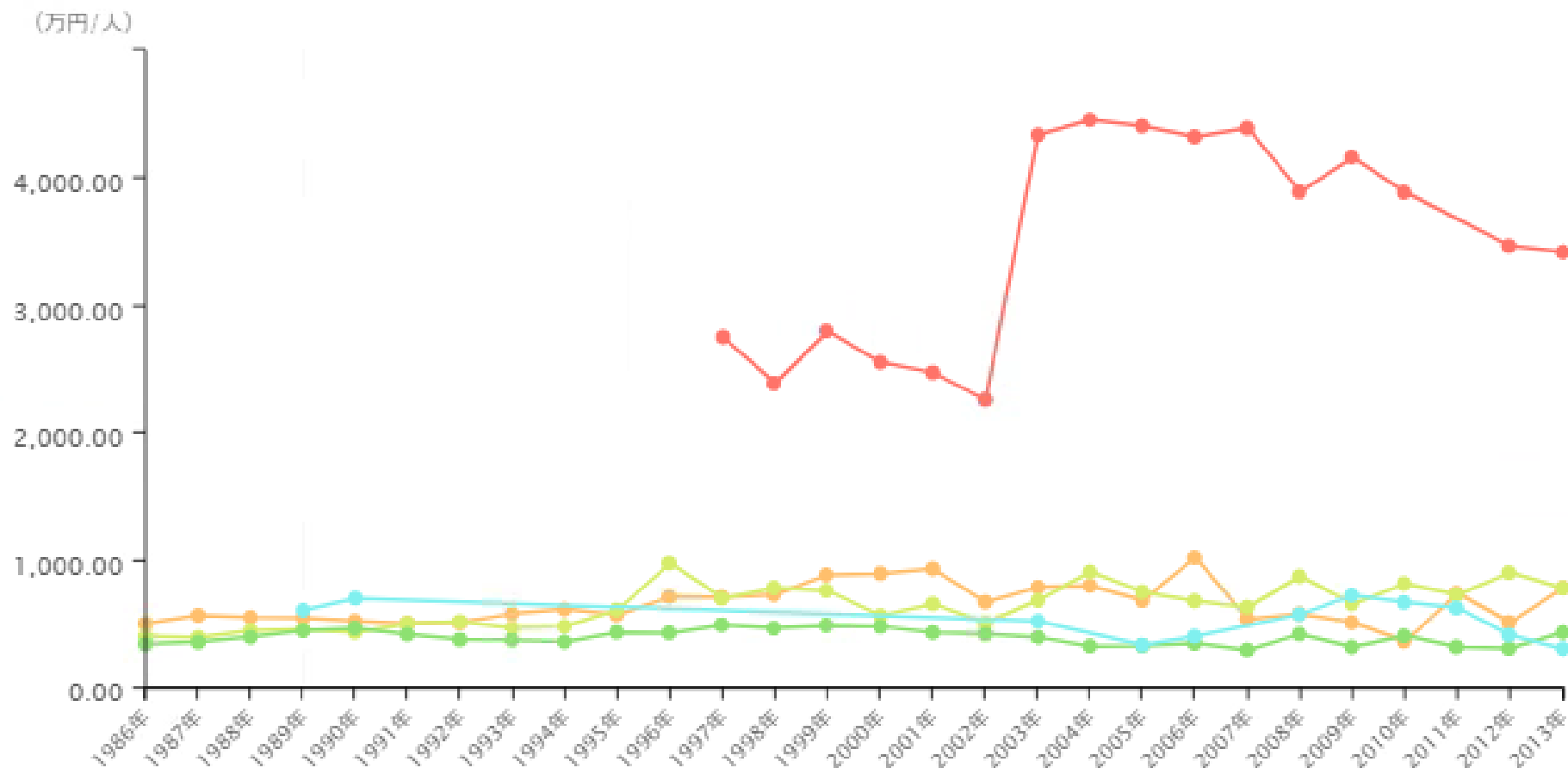
○第2次産業はパルプ・紙産業が占める割合が大きく、次頁にあるように生産性の高いのもパルプ・紙産業。



労働生産性 (実数) の推移

北海道名寄市
製造業>すべての中分類

- パルプ・紙・紙加工品製造業
- 窯業・土石製品製造業
- 木材・木製品製造業 (家具を除く)
- 印刷・同関連業
- その他の製造業

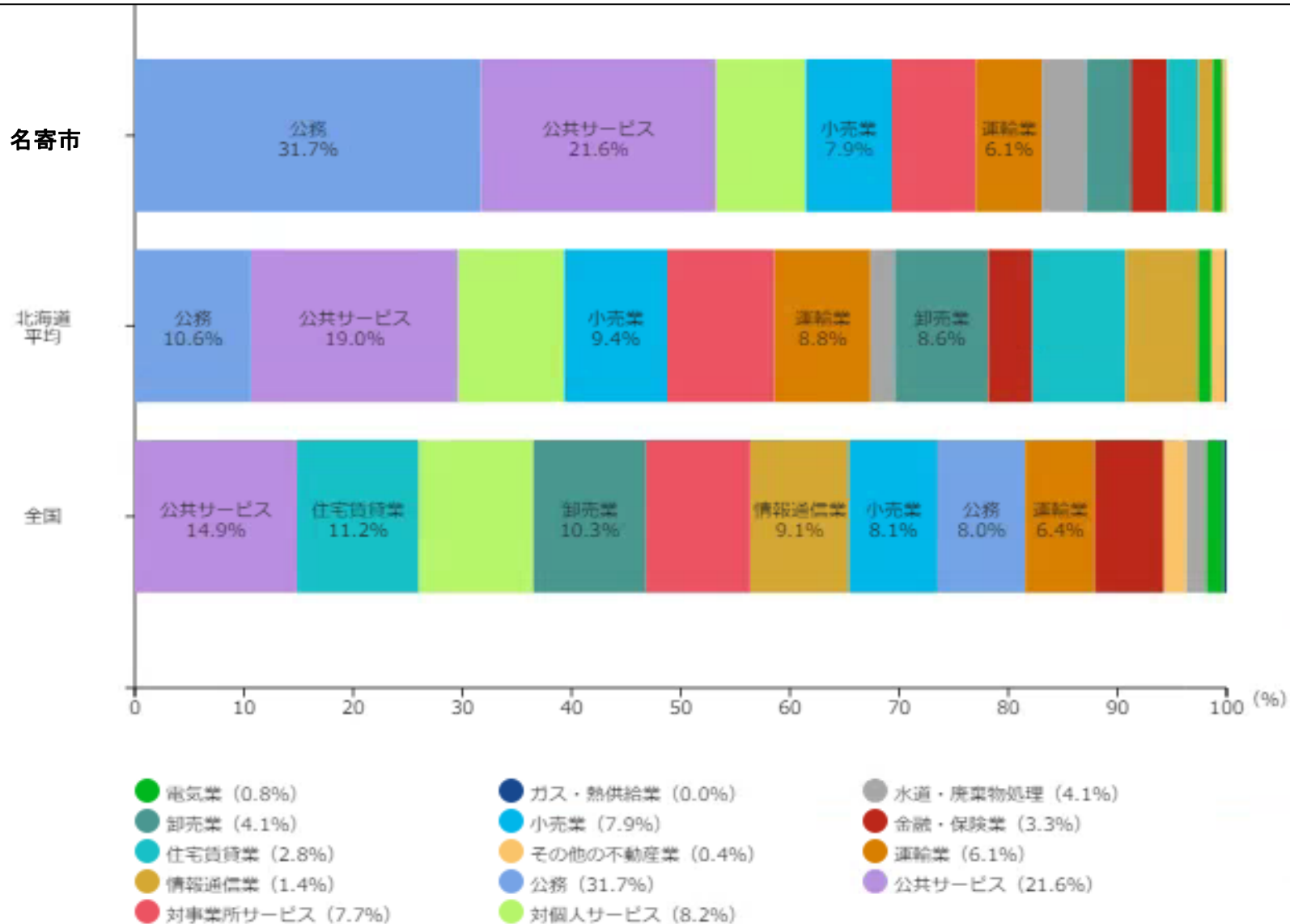


第2次産業の付加価値額及び1人当たり付加価値額(2013年)

	付加価値額(億円)	1人当たり付加価値額(万円)	順位
北海道	30,820	720	(31位)
名寄市	179	1,098	343位
士別市	103	569	1,307位
札幌市	5,153	434	1,586位
函館市	1,087	530	1,407位
旭川市	1,261	494	1,480位
帯広市	727	470	1,534位
北見市	715	690	970位
稚内市	241	648	1,080位
千歳市	1,016	978	464位
富良野市	123	786	756位

第3次産業の構造(2013年)

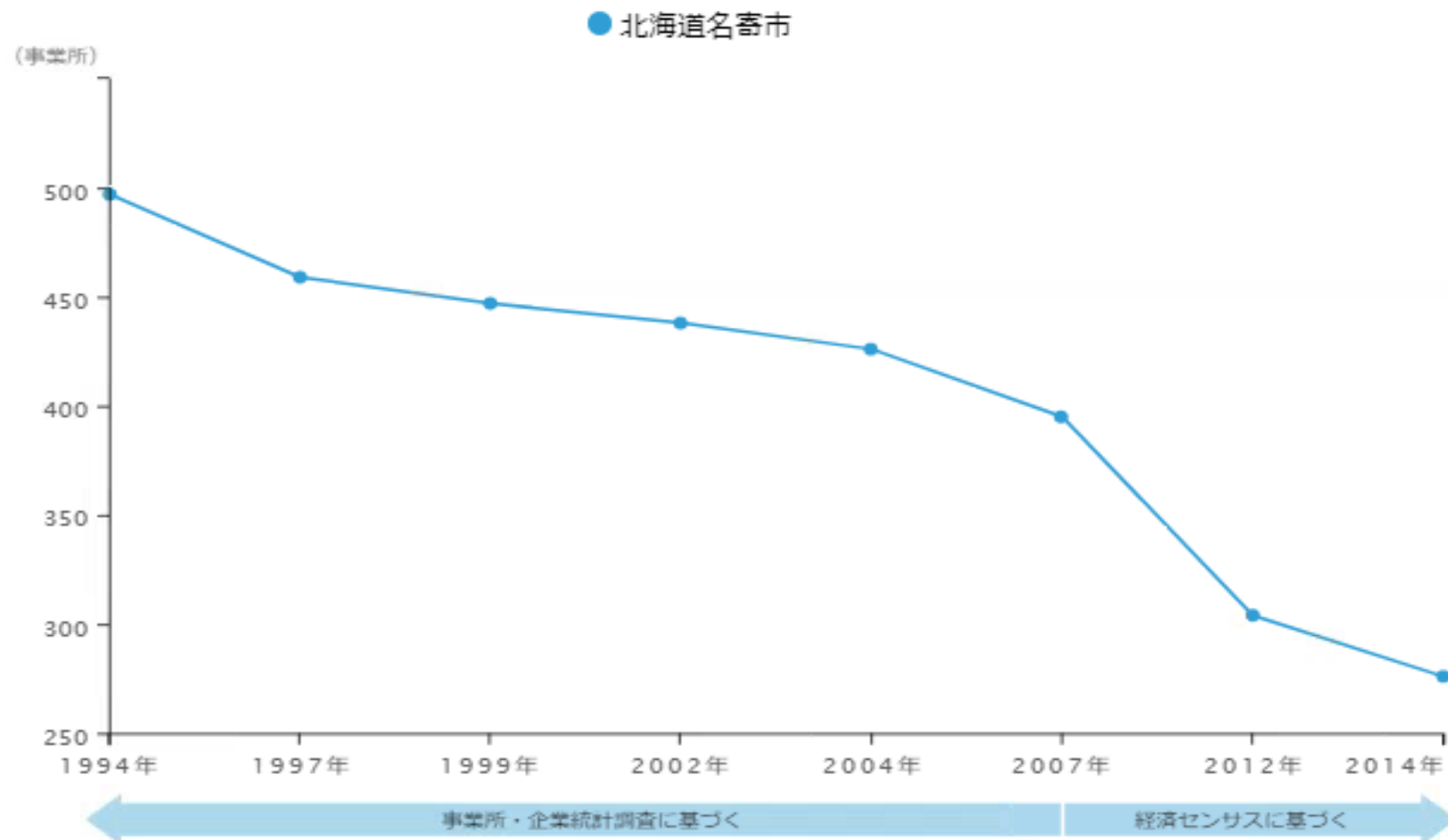
○第3次産業は、道内に中でも公務員比率が非常に高い構造となっている。
 ○小売・卸売業の分野でみると、事業所数は一貫して減少しているのに対し、販売額や雇用は直近で回復基調。



事業所数（実数）の推移（小売・卸売業）

北海道名寄市

産業：すべての大分類 > すべての中分類 > すべての小分類



【出典】

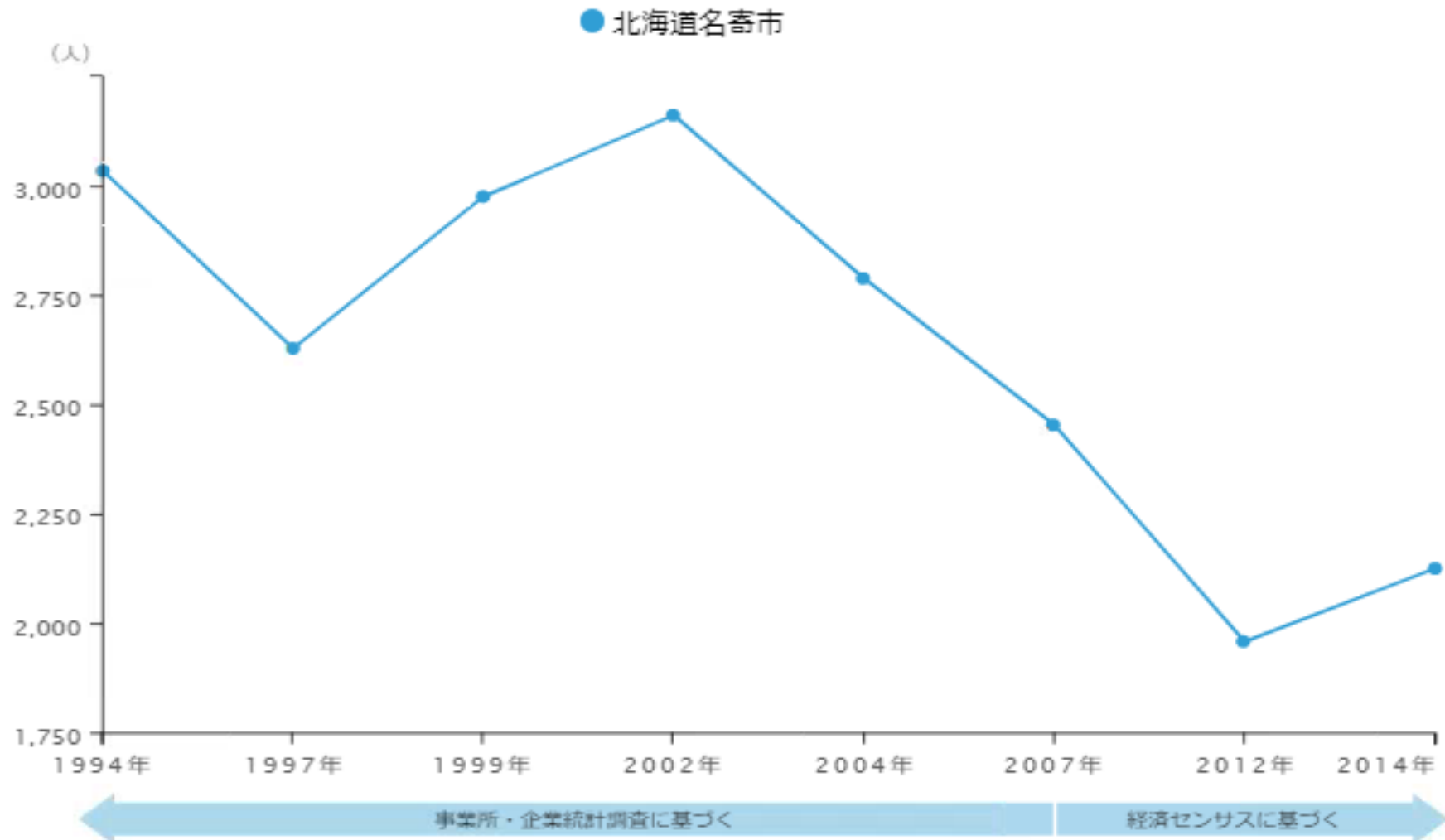
経済産業省「商業統計調査」

総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

従業者数（実数）の推移（小売・卸売業）

北海道名寄市

産業: すべての大分類 > すべての中分類 > すべての小分類

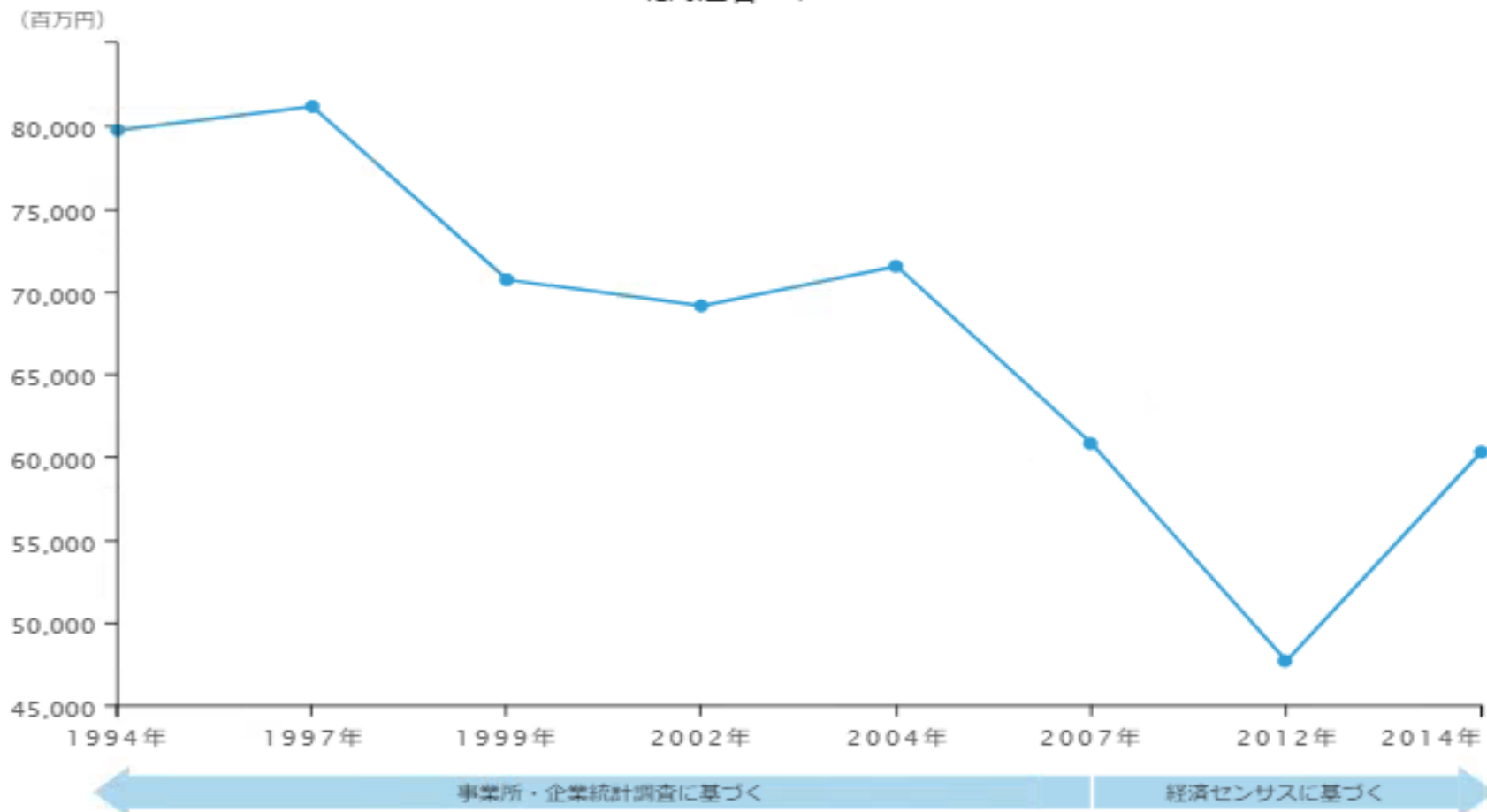


年間商品販売額（実数）の推移（小売・卸売業）

北海道名寄市

産業：すべての大分類 > すべての中分類 > すべての小分類

● 北海道名寄市



第3次産業の付加価値額及び1人当たり付加価値額(2013年)

	付加価値額(億円)	1人当たり付加価値額(万円)	順位
北海道	133,314	680	(38位)
名寄市	781	609	1,176位
士別市	411	507	1,626位
札幌市	60,894	804	219位
函館市	6,829	665	853位
旭川市	8,429	672	825位
帯広市	4,104	592	1,255位
北見市	2,562	590	1,267位
稚内市	804	564	1,382位
千歳市	2,883	710	597位
富良野市	462	518	1,575位

「住みよさランキング」(2018年)

名寄市 道内 5位 (2017年: 3位)
全国428位 (2017年: 191位)
※道内35都市 全国814都市中

〈道内ランキング〉

- 1位 北広島
- 2位 苫小牧
- 3位 千歳
- 4位 帯広
- 5位 名寄

〈内訳〉

安心度……………145位 (2017年: 211位)
利便度……………101位 (2017年: 12位)
快適度……………213位 (2017年: 185位)
富裕度……………688位 (2017年: 682位)
住居水準充実度…646位 (2017年: 646位)

〈安心度の内訳〉

・待機児童関係(2014年～)に代わり
2018年から年少人口増減率に指標
変更

〈利便度の内訳〉

・人口1人当たり小売業年間販売額
・人口1人当たり大型店店舗面積
・可住地面積当たり飲食料品小売事
業所数(2018年から指標に追加)

サービス施設の立地と自治体人口規模の関係(抜粋)

サービス施設	立地確率50%となる人口	立地確率80%となる人口
カラオケボックス	17,500人	37,500人
ペット・ペット用品小売業	32,500人	47,500人
音楽・映像記録物賃貸業	27,500人	47,500人
ハンバーガー店	32,500人	52,500人
ショッピングセンター(売場面積15,000㎡以上)	77,500人	92,500人
映画館	87,500人	175,000人
スターバックスコーヒー	175,000人	275,000人
大学	125,000人	175,000人
地域医療支援病院	97,500人	225,000人
介護療養型医療施設	32,500人	62,500人
有料老人ホーム	42,500人	125,000人

主要施策の成果指標(KPI)

資料3-1

基本目標	主要施策	指標項目(KPI)	基準値	目標値	説明
I 市民と行政との協働によるまちづくり	I-1 市民主体のまちづくりの推進	町内会加入率	77.98% (H29)	78.50% (H34)	市内72町内会における加入率
		地域連絡協議会(活動費)交付件数	11件 (H29)	14件 (H34)	地域連絡協議会が事業を実施する際にかかる費用の助成件数
		まちづくり推進補助金交付件数	3件 (H29)	5件 (H34)	まちづくり推進事業実施件数
		名寄市ホームページ閲覧数(トップページ)	353,145件 (H29)	385,000件 (H34)	ホームページを利用した情報発信の充実
	I-2 人権尊重と男女共同参画社会の形成	市内小中学校における人権教室の実施	0回 (H29)	12回 (H34)	市内小学校8校、中学校4校(H30.4.1現在) 計12校での人権教室回数
		男女共同参画セミナー参加人数	90名 (H25~27平均値)	100名 (H34)	毎年1回開催する市主催のセミナー参加者数
		職場における男女平等感	33.80% (H28)	40.00% (H34)	市内企業従業員アンケート調査による平等と感じる人の割合(H34実施予定)
		行政委員会、審議会等における女性委員の割合	36.70% (H28)	50.00% (H34)	地方自治法・その他法令、条例・規則等に基づく委員会・審議会における女性委員の割合(全75組織)
	I-3 情報化の推進	情報セキュリティ研修の開催回数	1回 (H29)	2回 (H34)	情報セキュリティに係る職員研修会の開催回数
		個人情報等の漏洩件数	0回 (H29)	0回 (H34)	市の保有する個人情報等の外部漏洩件数
	I-4 交流活動の推進	教育旅行に係る誘致活動	2回 (H28)	2回 (H34)	台湾での誘致活動の回数
		教育旅行の受入件数	2件 (H28)	3件 (H34)	台湾の高校等の受入件数
		お試し移住住宅利用日数	73日/棟 (H29)	100日/棟 (H34)	1棟あたりのお試し移住住宅利用日数
		SNSフォロワー数	120(H29)	450(H34)	名寄市移住促進協議会SNSフォロワー数
	I-5 広域行政の推進	定住自立圏域人口	83,307人 (H27)	76,020人 (H37)	定住自立圏域自治体の人口ビジョンでの展望人口より算出
		定住自立圏共生ビジョンへの事業追加・更新件数	0件 (H29)	4件 (H34)	定住自立圏共生ビジョンへの新規事業の追加、既存搭載事業の更新件数(累計)
		市立大学生定住自立圏域内就職者数	9人 (H29)	30人 (H34)	市立大学生卒業生の定住自立圏域内での就職者人数
		交流自治体との新規連携事業件数	0件 (H29)	2件 (H34)	杉並区を中心とする交流自治体との連携事業の創出(累計)
	I-6 健全な財政運営	実質公債費比率	8.2%(H28)	13.0%以内(H38)	財政状況の健全性を表すため、国が定めた指標
		将来負担比率	28.6%(H28)	90%以内(H38)	
		市債の借入	—	市債借入は元金償還以内に努める(H38)	公共施設を建設するためなどに借りた市の借金
財政調整基金・減債基金の残高		38億9千万円(H28)	18億円以上(H38)	財源調整機能を有する市の貯金の残高	
I-7 効率的な行政運営	公共施設の総延床面積	316,258㎡ (H27)	▲13% (H47)	保有する公共施設の総延床面積(施設総量)を13%削減	
	外部講師導入研修への平均参加人数	20.5人 (H29)	30.0人 (H34)	市民との協働能力及び専門性向上を目的とする外部講師実施職員研修参加人数	
II 市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり	II-1 健康の保持増進	がん検診受診率(女性のためのがん検診推進事業)	28.60% (H28)	50% (H34)	年度毎の女性のためのがん検診推進事業(子宮・乳・大腸がん)における受診率の平均
		なよろ健康マイレージ達成率	53.20% (H28)	55% (H34)	年度毎のなよろ健康マイレージ参加者に占める達成者の割合
		3歳児健診受診率	98.20% (H28)	100% (H34)	年度毎の受診率
		麻しん・風しん混合予防接種の接種率	88.40% (H28)	95% (H34)	年度毎の麻しん・風しん混合予防接種(第1期・2期)の接種率の平均
	II-2 地域医療の充実	医師派遣件数	585日 (H28)	650日 (H34)	地域医療支援室医師派遣数
		道北北部連携ネットワークの拡大	16施設 (H29)	20施設 (H34)	ポラリスネットワーク参加施設数
		患者紹介率	26.50% (H28)	30.00% (H34)	退院患者の紹介率
		医師・看護職員数	472人 (H28)	502人 (H32)	市立総合病院の医師・看護職員数
	II-3 子育て支援の推進	子育て支援センターの利用	1,324人 (H28)	1,450人 (H34)	年度ごとの利用登録者数
		ファミリー・サポート・センター事業の利用	128人 (H28)	160人 (H34)	年度ごとの登録者数
		待機児童数	6人 (H28)	0人 (H34)	年度ごとの4月1日時点の待機児童数
		こども発達支援事業の利用	54人 (H28)	60人 (H34)	年度ごとの通所児数
	II-4 地域福祉の推進	町内会ネットワーク事業参加町内会数	56町内会 (H28)	72町内会 (H34)	全町内会(72)に占める参加町内会数
		名寄市保健医療福祉推進協議会の開催	3回 (H28)	3回 (H34)	福祉全般に関わる会議を必要に応じて開催
		生活困窮者自立支援事業相談員数	2名 (H28)	2名 (H34)	主任相談員及び相談員の継続配置
	II-5 高齢者施策の推進	健康づくり体操教室	1,947人 (H28)	3,000人 (H34)	年度ごとの利用者数
		SOSネットワーク登録	48人 (H28)	84人 (H34)	年度ごとの登録者数
		生活支援ハウスの設置	0か所 (H28)	2か所 (H34)	生活支援ハウス設置数
		認知症カフェの開催	0回 (H28)	12回 (H34)	年度ごとの開催回数
	II-6 障がい者福祉の推進	重度障害者ハイヤー料金助成事業交付率	54.40% (H28)	65.00% (H34)	対象者に対する交付率
		基幹相談支援センター事業相談員数	3人 (H28)	3人 (H34)	相談支援専門員の継続配置
名寄市障害者自立支援協議会の開催		3回 (H28)	3回 (H34)	障がい全般に関わる会議を必要に応じて開催	
II-7 国民健康保険	後発医薬品の数量シェア	66.40% (H28)	80% (H32)	年度ごとの数量シェア	
	特定健診の受診率	34.40% (H28)	60% (H35)	年度ごとの特定健診受診率	
	糖尿病重症化予防にかかる保健指導率	68.60% (H28)	80% (H35)	糖尿病の重症化を防ぐために保健指導を実施した割合	

主要施策の成果指標(KPI)

資料3-1

Ⅲ 自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり	Ⅲ-1 環境との共生	二酸化炭素排出量	28,416t (H29)	27,564t (H33)	市が実施する事務事業(公共施設)に係るCO2の排出量
	Ⅲ-2 循環型社会の形成	リサイクル実績	1,259t (H28)	1,300t (H34)	年度ごとのプラごみ、ペットボトル等の資源化ごみの収集量
		集団回収事業実績	407t (H28)	420t (H34)	再生資源集団回収事業の回収量
		ボランティア袋配布枚数	4,820枚 (H28)	5,000枚 (H34)	町内会、団体、企業等に配布するボランティアごみ袋の配布枚数
	Ⅲ-3 消防	住宅用火災警報器設置率	85% (H30)	100% (H34)	市内における住警器設置率
		消防車両の更新	7台 (H30)	7台 (H34)	H34までに更新計画のある台数
		サイレン更新	1基 (H30)	1基 (H33)	名寄消防団第4分団中央詰所サイレン
	Ⅲ-4 防災対策の充実	自主防災組織の設立団体数	19団体 (H29)	25団体 (H34)	町内会での設立件数
		防災関係職員研修の実施件数	年1回 (H28)	年1回 (H34)	天塩川流域圏の自治体及び国・道職員による研修会(毎年度1回開催)
	Ⅲ-5 交通安全	期別及び特別交通安全運動、パトライト作戦等	54回 (H29)	70回 (H34)	期別及び特別交通安全運動、パトライト作戦等の回数合計
		交通安全教室、こぐまクラブ等交通安全啓発	53回 (H29)	70回 (H34)	交通安全教室、こぐまクラブ等の回数合計
		各種団体等と連携した交通安全啓発活動等	221回 (H29)	250回 (H34)	各種団体等と連携した旗の波等啓発活動の回数
		交通事故発生件数	21件 (H29)	減少傾向 (H34)	市内で発生した交通事故件数
	Ⅲ-6 生活安全	空家実態把握	名寄市街地域 (H29)	名寄市内全域 (H34)	管理不良空家に関する実態把握調査
		特定空家等除却支援件数	0件 (H29)	5件 (H34)	管理不全の空家の除却支援件数
	Ⅲ-7 消費生活の安定	消費生活相談件数	315件 (H25~H29 平均値)	300件 (H34)	消費生活相談員による相談件数
		セミナー・講座参加者数	433人 (H29)	500人 (H34)	成人対象のセミナー参加者
		相談員研修会等の参加	11回/年 (H29)	12回/年 (H34)	国・道・消費者協会等が開催する相談員研修会への参加
	Ⅲ-8 住宅の整備	公営住宅の管理戸数	899戸 (H28)	776戸 (H34)	市営住宅のストック数
		公営住宅の整備戸数	214戸 (H28)	395戸 (H34)	建替及び改善により整備した市営住宅戸数
		住宅の耐震化率	70.70% (H27)	95.00% (H32)	耐震基準を満たす住宅の割合
Ⅲ-9 都市環境の整備	街路灯のLED化率	19.60% (H28)	75.00% (H34)	都市整備課の所管する街路灯総数に対するLED化灯数	
	公園施設長寿命化計画の進捗率	18.10% (H28)	100% (H34)	公園施設長寿命化計画の対象公園数に対する実施公園数	
Ⅲ-10 上水道の整備	給水区域拡張(配水管新設)	0m (H29)	2,900m (H31~H34)	給水区域拡張に伴う配水管新設整備	
	浄水場等施設改修	11件 (H29)	31件 (H31~H34)	浄水施設等の維持管理・改修整備	
	老朽管更新整備	2,819m (H25~H29年平均)	3,000m (H31~H34年平均)	老朽化した配水管の更新	
	取水施設改修	3件 (H29)	7件 (H31~H34)	水道取水施設改修整備、水源対策工事	
Ⅲ-11 下水道・個別排水の整備	長寿命化計画の進捗率	67.10% (H29)	100% (H32)	管渠及び処理場施設の改築更新	
	水処理経費の低減	4,800千円 (H27)	2,400千円 (H32)	不明水における処理場の水処理経費	
	有機肥料の活用	443t (H27)	450t (H34)	脱水ケーキ利用数量	
	合併浄化槽の普及率	69.80% (H29)	78.00% (H34)	合併浄化槽の人口普及率	
Ⅲ-12 道路の整備	幹線道路の整備延長	267m (H29)	4,703m (H34)	計画期間内の幹線道路整備延長(累計)	
	市街地・郊外地の道路整備延長	319m (H29)	4,513m (H34)	計画期間内の生活道路整備延長(累計)	
	補修橋梁数	1橋 (H29)	14橋 (H34)	計画期間内の長寿命化計画で策定した修繕すべき橋梁数(累計)	
	除雪機械更新台数	1台 (H29)	4台 (H34)	計画期間内の除雪機械更新台数(累計)	
Ⅲ-13 地域公共交通	多様な交通手段の検討	1路線 (H30)	2路線 (H34)	見直しするバス路線数	
	バス利用の促進	21万人 (H29)	21万人 (H34)	市内運行バス利用者数(平成29年度利用水準の確保)	

主要施策の成果指標(KPI)

資料3-1

IV 地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり	IV-1 農業・農村の振興	新規就農者数	12人 (H29)	14人 (H34)	年度毎の新たに就農する農業後継者・新規参入者
		1頭当たり平均生乳生産量	8,394kg (H29)	9,306kg (H34)	JAに出荷される生乳生産量から算出
		法人経営体	22 (H29)	26 (H34)	法人経営体の総数
		食育に関心のある市民の割合を増やす	84% (H28)	90% (H34)	20歳から74歳までの無作為に抽出した市民1,000名のアンケート調査において「食育に関心がある」と回答する人の割合
	IV-2 森林保全と林業の振興	森林作業員就労人数	24人 (H29)	30人 (H34)	実際に市が負担した森林作業員の人数
		民有林人工林除間伐実施面積	108ha (H29)	150ha (H34)	民有林における除伐、切捨間伐及び搬出間伐の実施面積
		市有林皆伐面積	6ha (H29)	20ha (H34)	市有林における皆伐の実施面積
	IV-3 商業の振興	創業支援事業を活用した創業件数	1件 (H29)	5件 (H34)	補助金を活用して創業した件数(累計)
		店舗支援事業を活用した店舗の新築等の件数	6件 (H29)	25件 (H34)	補助金を活用して店舗の新築等を実施した件数(累計)
		先端設備等導入計画の認定事業者件数	—	10件 (H32)	先端設備等導入計画の認定を受けた事業者の件数(累計)
	IV-4 工業の振興	創業支援事業を活用した創業件数	1件 (H29)	5件 (H34)	補助金を活用して創業した件数(累計)
		人材確保・工業技術者育成事業の利用件数	4件 (H29)	20件 (H34)	補助金を活用して人材育成・技術者の育成を実施した事業者数(累計)
		先端設備等導入計画の認定事業者件数	—	10件 (H32)	先端設備等導入計画の認定を受けた事業者の件数(累計)
	IV-5 雇用の安定	新規高卒者の管内就職率	49.70% (H29)	56.70% (H34)	管内への就職率
		季節労働者数	441人 (H28)	355人 (H34)	季節労働者数
	IV-6 観光の振興	観光入込客数	44万6千人 (H29)	61万6千人 (H33)	観光入込客数 ※名寄市観光振興計画参考
		外国人観光客宿泊数	1,096泊 (H29)	1,635泊 (H33)	訪日外国人観光客宿泊延数 ※名寄市観光振興計画参考
	V 生きる力と豊かな文化の育むまちづくり	V-1 幼児教育の充実	支援が必要な乳幼児の幼児教育受け入れ施設数	4箇所 (H28)	5箇所 (H34)
特定教育の必要量の確保			285人 (H28)	465人 (H34)	新制度に移行した認定子ども園・幼稚園における特定教育の定員数
幼児教育における小学校への接続人数			103人 (H28)	182人 (H34)	新制度に移行した認定こども園・幼稚園における小学校との連携・接続を見通した教育課程を受けた児童数
V-2 小中学校教育の充実		全国学力・学習状況調査全科目の結果	—	全科目 全国平均以上	毎年度上回ることを目標とする
		全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果	—	体力合計点 全国平均以上	毎年度上回ることを目標とする
		学校運営協議会の設置状況	小学3中学1校 (H29)	全小・中学校に設置 (H34)	保護者及び地域住民等の学校運営への参画促進のため設置する協議会
V-3 高等学校教育の充実		高校生資格取得支援者人数	116人 (H29)	200人 (H34)	平成29年度から事業を実施
V-4 大学教育の充実		卒業生市内就業者数	7人 (H29)	20人 (H34)	年度ごとの卒業生の市内就業者数
		企業情報提供機会 (ミニジョブカフェ)	1回 (H29)	2回 (H34)	年度ごとのミニジョブカフェ開催数
		公開講座の開催回数	4回 (H29)	5回 (H34)	年度ごとの公開講座開催数
		リカレント講座開催回数	6回 (H29)	7回 (H34)	年度ごとのリカレント講座開催数
V-5 生涯学習社会の形成		市民講座参加者数	302人 (H29)	320人 (H34)	名寄市公民館、風連公民館、智恵文公民館で開催した市民講座の参加者数
		北国博物館来訪者数	11,765人 (H29)	12,000人 (H34)	年度ごとの特別展や各種事業を含めた北国博物館の利用人数
		図書館入館者数	41,839人 (H29)	42,000人 (H34)	年度ごとの市立名寄図書館及び風連分館の入館者数
		天文台来訪者数	12,278人 (H29)	12,500人 (H34)	年度ごとの星まつりなどの事業も含め天文台に来訪した人数
V-6 家庭教育の推進		家庭教育学級実施事業参加者数	374人 (H29)	380人 (H34)	年度ごとの家庭教育学級で実施した事業の参加者数
		家庭教育合同講座参加者数	65人 (H29)	70人 (H34)	年度ごとの家庭教育学級合同で実施した事業の参加者数
		家庭教育支援講座参加者数	40人 (H29)	50人 (H34)	年度ごとの市が実施した家庭教育支援講座の参加者数
V-7 生涯スポーツの振興	親子参加型スポーツイベント参加人数	0人 (H28)	800人 (H34)	スポーツとの出会い、きっかけづくりによる親子参加型スポーツイベントへ参加した人数(累計)	
	ジュニア選手全国大会出場人数	8人 (H28)	15人 (H34)	年度ごとのジュニア育成の成果により冬季スポーツ全国大会に出場した選手の数	
	スポーツ合宿入込人数	8,081人 (H29)	10,000人 (H34)	スポーツ合宿で市内に宿泊した人数(延べ宿泊数)	
	全国規模スポーツ大会参加人数	360人 (H28)	600人 (H34)	市内で開催した全国規模の冬季スポーツ大会に参加した選手の数	
V-8 青少年の健全育成	子ども体験・交流事業参加者数	72名 (H29)	90名 (H34)	都会っ子交流、へっちゃんLAND、わくわく！体験交流会参加者数	
	児童館来訪者数	19,886名 (H29)	19,500名 (H34)	名寄市児童センター・風連児童会館の年間利用者数	
	放課後児童クラブ登録数	274名 (H29)	290名 (H34)	公設児童クラブ・民間学童保育所に登録している児童数	
	放課後子ども教室参加者数	32名 (H29)	40名 (H34)	年度ごとの名寄地区及び風連地区で開催している小学生教室及び中学校教室の参加者数	
V-9 地域文化の継承と創造	来場者アンケートによる満足度	84% (H28)	85% (H34)	なよろ舞台芸術劇場実行委員会の主催又は共催による芸術鑑賞事業	
	市民文化祭事業	50団体 (H28)	50団体 (H34)	年度ごとの出展及び出演団体数	

市長との意見懇談会（教育・文化・スポーツ・合宿分野）

5月28日18:30～

合併した後、名寄市として1つの文化祭という意見もあったと思うが、従来通り名寄・風連それぞれの文化祭としてやってきたのがよかったと思っている。風っ子プロジェクトを推進し、年に3回ほど音楽中心の事業を通して風連地域の文化振興を進めている。

風連・名寄で独自に地域の伝統があつて当然だと思うが、名寄市の文化を培っていくためには名寄・風連が交流しないと新しいものが生まれてこない。名寄市の文化祭、風連町の文化祭にも個人ではなく団体として参加していく交流が必要である。

スキーなどを中心にスポーツ合宿を推進しながら全国大会を誘致している。これが人づくり元気づくりにつながっていくのかなと思う。スポーツは健康にも役に立つ。ジュニア育成について、子供たちを大事に育てるというのが求められる。

行革の関係だと思うが施設使用料手数料の見直しで減免措置がこれまでの10割から5割になっており、そのあたりの経緯を知りたい。施設利用を減免して誰しものがスポーツを楽しめる環境づくりが必要と個人的には考えている。

毎月1回の活動を基本としているが大学生には夏休みなどお手伝いをさせていただいている。カメラなどの機器や望遠鏡なども1度買っても、2、3年でより高性能なものが出たりするので消耗品・備品の更新を検討して欲しい。

施設の利用件数は増えているが、利用人数が減っている。施設の利用には応分の負担をいただくことで致し方ないのかとは思ふ。冬季スポーツ拠点化に向けた取組として、阿部さん豊田さんが小学校を回って運動方法の指導や、教職員への指導含め基本的な部分をやっただけで、スポーツ普及への期待感を持っている。冬季スポーツ拠点化は市の目玉事業であり、これまでやってきたことを進めていけばまだまだ人を集められると思う。市民周知も含めて更なる広がり期待している。

市内のサークル数が増えていることから学校の体育館を借りるのに苦労している。廃校の体育館の利活用などについて検討いただければ。

名寄は2子3子の子供が多い。名寄は子供を産みやすい・育てやすいのではないかと思う。学生が活動しやすく、お母さん方が子どもを生みやすいまちとなるよう、名寄の特徴を出していけないか。

図書館の児童室は畳2畳分のスペースしかないが。それでもすごくいい場所を作っていただいたと思うし、青年会議所の計画で街の中に図書館という計画があつてすごくいいと思った。第3次総合計画くらいなるかもしれないが新しい図書館を作って頂きたい。

名寄はジュニア育成の効果が表れ、全国や世界で活躍するようになってきている。カーリング施設はできれば通年型がいい。サンピラー交流館は夏は無料で開放しているのに、冬だけ有料というのは不公平ではないか。北海道立のカーリング施設であるため、要望をお願いしたい。

士別で地域計画を作っているという新聞記事があつた。総合計画中期計画は間に合わないと思うが、住民が自分の地域をどうしたらいいかという話し合う機会を持つことが大事であり、その一つとして地域計画策定するというのも有効かと思う。

国道40号線の市立病院側に高齢者介護住宅、放課後に子どもたちが遊べる施設や市立大学サテライトキャンパスを作り介護や保育の実習が可能な施設整備を行い、コンパクトシティを目指してはどうか。

市の財政が厳しくなるのであれば、コンパクトシティの取組も大胆に実施する必要がある。また、若手青年部などが起業するなど、民間がやる気を出しみんなでやらないと厳しいと思う。

コンパクトシティなどまちづくりを進めるためには、同じ認識を持った人たちが集まり議論する場・機会を作ってほしい。暮らしづくり元気づくりは各分野でやっていけるが人づくりは全分野でどうするというのを官民一緒になって考えていく必要がある。また、土地提供者をまちづくりに引っ張り込まないと机上の空論。地主をまちづくりに巻き込み検討していく必要があり、具体的な計画と並行して双方一緒に進めていく必要がある。

生活していて一番の問題は高齢化し、メンバーが固定化されている町内会関係だと思う。何か町内会に対する助成・支援がないか。風連では年にとって車が運転できなくなったら、買い物行けなくなり困ると思う。インバウンドはインターネットを活用して観光をすることから、インターネットで検索されるようにホームページを整備する必要がある。

商業の活性化のためには人が集まる施設や施策が必要だと思う。商業者自体に体力がなく即効性がある事業ができない状況であり、賑わいを作るために中心部にどんな施設をつくれればよいかを考えてほしい。

空家は個人財産ではあるが、危険な建物は解体して空き地するとともに、飛び飛びで空き地ができているので集約して、中心部にドーナツを作るくらい大胆に空き地を作ることができれば土地が流動化する。大きな施設を作れるスペースを確保して欲しい。まちの中に空間を集めるために、土地の売買は難しいと思うが、まちづくりのために理解していただき、土地の交換または貸し借りできないか。思い切った区画整理が必要だと思う。

観光＝イベントで人集めというイメージだが、市民の満足度、近隣自治体住民の満足度には寄与するが、近隣自治体からの集客では経済効果は少ない。名寄の強み（天文台やエンレイ、スキー環境など）を活用する必要がある。人づくりということで大学生、高校生に楽しいまち住みよいまちと印象付け、名寄はいい街だと話してもらえたら PR になるし市民の誇りに繋がる。住んでいる人が住みよいまちと言えるようなまちづくりを願う。

大学の公開講座の周知と科目と講師などを公表し、社会人がもっと大学に関わる機会を増やして欲しい。学生にとっても社会人との交流があることはいいことではないだろうか。リカレント教育は大学の生き残り戦略としても有効である。中心市街地にリカレント教育を中心としたサテライトキャンパスという案もいいかもしれない。

子どもが長く遊べて、安心して預けられる施設があればいいと思う。風連地区は公園少なく、遊具も少ないので改善が必要と感じる。

年寄りが住みかえられる公営住宅があるといいと思う。風連地区の Q マート西側の空き家・空き地を、商店と高齢者施設などが合わさった風連バージョンのものがあってもいいのかと思う。

名寄市には大学、自衛隊、総合病院が立地し、圏域の中心であることからこの強みを活かす必要がある。また、安心して子育てできる環境が人口減少対策の一助になると思っている。冬季スポーツ拠点化の推進は交流人口の拡大、雇用や産業創出に期待ができる。宗谷本線活性化は名寄市が中心となった活動に期待している。公営住宅は抽選であるが、空き家対策などにより若者が名寄市に住める支援があればいいと思う。

商店街のアーケードの管理は持ち主にまかせるのではなく、行政支援できないか。また、空き家について、雪で倒壊している家も市内にはあり、管理放棄されていて物置が倒壊しているものもあることから現状把握し、管理できていないものに指導してほしい。

冬季スポーツ拠点化の取組・生涯スポーツの一環ということで高齢者のスポーツ振興を支援してはどうか。スポーツ振興で健康になり医療費削減、集い交流することで心の健康、名寄は高齢者に優しい街ということにもなる。高齢者に優しい街をアピールすれば名寄市に定住する人も増えると思う。

子どもの遊び場であると同時に、年配の方が散歩の途中で休めるようにベンチや木陰があり、水飲み場とトイレが完備された児童公園があるといい。

保育所は19時半までなのに公設児童クラブは18時半、民間は弾力的に19時の開設時間である。小学校にあがると預けられる時間が1時間短くなることは親の負担に繋がるので保育所と同じ開設時間にして欲しい。

名寄市の除雪は素晴らしいが、高齢者が冬に車道を歩いていることを目にするので、通学路以外も除雪してほしい。

玄関先（間口）の除雪について相談・依頼が多かったが受けることができなかった。町内会の中で仕事ができる方などがいれば報酬を支払い依頼したいが人手不足で難しい。近所の人協力しなければ難しいが高齢化が進み、これまで頼めていた周りの人にも頼めなくなっているようである。

担い手は減っても高齢者は減らない時代になってきているので、どういう形で支える仕組みを作っていくかというのを総合計画にも盛り込んでほしい。団塊の世代は自分の好きなことはやりますが、決まりに縛られることを嫌う方が多いようであるが、短時間でも地域で元気に活動してもらえれば。

支え合いについて、何人の高齢者を何人の人で支えるかと考えると、自分たちの力だけでは追い付かない状況を理解していないと議論が進まない。低所得者が除雪費用を捻出できないとなると、助成金などの支援が必要となる。地域の方だけでやっていくのは難しいと感じている。子育て世代の人の活躍の場と考えると、土日と夜間に安心して子どもを預ける場がないことが、経済活性化のブレーキになっている面があると思うので、高齢者ではなく子育て中の女性の活躍できる環境整備・基盤整備が重要かと思っている。

除雪については一定の収入がある方には自己負担でお願いしているが文句が出る。収入制限の限度額をあげるか、町内会に補助金を出して若い人たちに手伝ってもらうなどしかないかもしれない。単身高齢者が増えている中でシェアハウスみたいにして共同生活で生きがいを見出す生活形態が必要になっているのではないかと。一人でいるより安心感もある。

戸建て住宅を市に寄付すれば公営住宅に優先的に入れるなど検討できないか。寄付された物件はケアハウスや障がい者施設として使うことができれば家も壊さずに済む。

除雪以外にも災害の問題も含めて、全安心な生活を送るためのサポート体制を構築するためには、元気な高齢者はたくさんいてどう巻き込んでまちづくりをするかが重要になる。活動するうえで重たくなくと、拘束されたくない、気軽に参加したいという声が聞こえる。

市立病院が高齢者の安心感につながっていると同時に、小児科医が常勤というのは地域にとって心強い。子育て世代の人が地域に根付いて働く機会が経済活性化につながると思う。日曜・祝日の預ける場所がないことと保育料が負担になっていると感じる。

ひまわりランドのお父さん利用はほとんどないと思うが、土日のサンピラーパークはお父さんが多くいる。サンピラーパークには専門職はいないので、子育て支援センターが土曜だけでも開いていれば専門職とお父さん、お父さん同士がつながるのではないかな。そのような環境があってもいいと思う。

総合計画の重点プロジェクトは厳密には全部にマルがつくと思うが、三重丸、◎、○みたいな見せ方をしてもいいと思う。

(事務局注：前期計画では各プロジェクトにつき、5つの基本目標のうち3つに○をつけていた。)

市立病院の医師数は多いが開業医は減っている。閉院してそのまま残っている病院施設を使って、市立病院の先生を派遣した診療体制はどうか。また、風連で実施している往診を名寄でもしてもらおう仕組みはできないか。風連地区のように地域毎にそういう医師がいて、全体を診ていただける医師がいて、市立病院のサテライトでもあれば安心。

高齢者を労働力として考えるのもいいが、もう少し緩い連携、1時間でも2時間でもできる範囲で社会に貢献してもらおうやり方もあると感じた。昔保育士だったという方が土日に少し働いて隙間が埋まればうまくいくのかもしれない。緩い連携で少しの隙間埋めが有効かもしれない。自助公助共助。自助の部分のちょいサポートを具現化してほしい。

農協と大学で考えてくれた学生の農業アルバイトはとてもいいと思う。学生からは「農村は自然があり生きている感じがしていい」という言葉を聞き農家としては元気をもらえた。大学生だけでなく農業の担い手として新規就農される方をどんどん受け入れていく方法はないか。季節労働者を夏は北海道、冬は南で観光、または夏は農業、冬は除雪など労働力を確保する対策を考えて欲しい。人手を農業だけでなく全体で回していけないか。

空き家が多くあるので活用して移住してもらうことでうまく回ればと思う。持ち主に管理させながら保存できればいいと思うが、管理できていない危険家屋は潰していくしかない。管理責任をある程度押し付けながらやっていかないといけない。

田中角栄の列島改造論の時代の原野商法で市外や道外に居住する者に売られた山の土地が荒れている。図面上で区画されているが、子や孫の世代になり所在が掴めなくなっている。補助制度があるから林業、財産、山をなんとか守れている。

この地域にこんなに森林資源があるので、林業のざっくりとした良いイメージ作りをしていくことが大切。木彫りやククサ等木材加工文化と林業がマッチングすると素敵だと思う。

移住は観光客が来るようにたくさん来るわけではないが、移住者が移住してよかったということを発信してもらうことで、良い連鎖につながればいいと思う。

最近、来年再来年の経営のことを考える事が多い。自分は20代であるが年が近い人でも20歳以上離れている。地域のことを考えてたら40代、50代になった時にどうなっているんだろうと思う。今は、地域おこし協力隊など国の制度を活用して地域に人を増やすチャンスだと思う。地域おこし協力隊だと国の就農の制度よりもっと広い範囲で受け皿となっているが、これを国がやめたら地域にどうやって新規就農者を受け入れられるか考えたときには大変だなと感じるので、今頑張って受け入れてほしい。仲間がいないと自分たちの経営も持続していけないし、地域でやることもあるので、就農者が少しでも増えたらいいと思う。

名寄市は1自治体1JAで、中規模程度の農協ですが、もち、アスパラ、スイートコーン、カボチャなど有力な全国に誇れる作物を作っていただいている。農協と行政が日頃から連携を密にして取り組んでいる。

Uターンで後継者が戻ってくるというのはハードル低いが、Iターンの人たちに優しい周りのお節介があるまちだとPRできれば、うらやましいと思ってもらえて、興味のある人たちにつながるというステップを踏めると思う。実際に就農してうまくいったというのを宣伝媒体にして、どこにでもいる予備軍にそのつながりから宣伝できればいいと思う。住みやすいまちで農業やって、いい環境であることを広報・周知できればいいと思う。Iターン者はいいアイデアをもっていると思う。

地域おこし協力隊などの制度を使えば昔より、農村地区での新規就農がしやすい状態になっていくのではないか。親の流れで就農するより移住者は大きな決断が必要である。

法人化すれば会社のような雇用形態になり来たい人もいるかもしれない。しかし、法人は増えているが人を雇用するまでいっていない。法人化で雇用をしているのは酪農くらいで、通年雇用する体力がなかなか無い。冬期間の仕事が問題である。

米なら米、とか方向が1つにまとまれば楽だけど。みんなそれぞれどうやって儲けようかと考えているので、同じ方向を向けるなら法人化も可能かもしれない。最初から法人として従業員雇う所がスタートだととっとし早さはあるけど、今いる人でやろうとするとなかなか難しい。昔は共同で作業をしていたが、今は個別に大きな機械で作業をしている。一緒にやろうとすると同じ考え、同じ世代とかでないといけない。

この年になって法人化をどうやっていいかわからないと聞く。

すでにある農家で法人化するメリットや法人化までの道のりについて誰に聞けばいいか。法人化した人の話を聞く場があれば聞いてみたい。

法人化は中々イメージできないが、これから農家数が減る中で大きな選択肢になりうる。最終的に6次産業化とかが成功例になると思うが失敗例からも学ぶ必要があると思う。

市長との意見懇談会（大学生）

6月19日 18時30分～

子育て支援の課題について、つながりが限定的になっているなという印象を持った。親子お出かけバスツアーでは高齢者との関わりだけでなく、いろんな世代の方（若者・大学生など）と関わっていった方が地域で子育てするためにはいいと思う。

名寄市は住みやすくて大家さんとかも優しい。市で海外留学などの取組をしていれば参加したい。海外の方とコミュニケーションをとれば視野も広がるし、子どもたちと関わる仕事をするにあたって見方が変わると思うし、グローバルな考え方もあればいいかと思う。

名寄市は一部の地域で治安が悪いと聞いたことがあり、一人暮らしの大学生としては怖い。道外出身者であるが地元の高校は人数が少なく、郊外からの通学にスクールバスが使えたり、高校でも給食が出たり工夫していた。また、希望者がアメリカとかイギリスに行けるという制度もあり、海外含め色々な人と話をして、経験ができる機会があればいいと思う。

大学ではボランティアの募集もチラシやLINEで宣伝しているので何個か参加をしているが、地域の人と関われる事がいいと思う。名寄は人の温かさを感じるし、学校にいないだけでは関われない大人との関わりも大学で与えてもらっているのでもいいと思う。社会保育学科でなくても子どもと関わったり、社会福祉学科でなくても地域の人と関わる事ができるのでいいと思う。小さいまちだからこそ多くの人と知り合えるいい環境だと思う。

寮は気密性が高くて喉がカラカラになる。夏はサーキュレーターと扇風機を置いても暑い。3階に住んでいるが、窓が少ししか開かないので、可能であれば窓を半分くらい開くようにしてもらいたい。子どもたちと関わるイベントもあるが、バイトを2つかけ持っていることと、社会保育学科の学生は忙しくて行けていないもどかしさがある。

名寄市は寒暖差が大きく、交通の便が悪い。大学生の間で話すのは映画館などの娯楽施設やスターバックスコーヒーなどがほしい。しかし、娯楽施設などはないからこそ家に集まりパーティー（たこ焼き、チーズダッカカルビなど）ができています。

友達が遊びに来た時に案内する場所がなくて、PRは難しいと感じた。

チャレンジデーや駐屯地の周年行事など名寄の人はイベントに積極的に参加するという印象。名寄の広報誌を見るが、見てもらうための工夫がされていて良い。手話の特集も好き。

学生の多くは地元に戻ってしまう。せっかく名寄の大学に来てここに住んだので、名寄に就職する大学生が増えればいいと思う。4年間は学校とバイトの日々だと思うが、名寄市に住んでいるからこそできる経験もしてもらいたい。

冬に名寄で免許を取りましたが、交差点に雪が堆積していて視認性が低く、初心者は怖くて前に出られない。除雪は良いが排雪をもう少ししてほしい。寮のコンロが電熱線で温まるのが遅く、かつあまり熱くならないので料理がしにくい。コンロは2口ほしい。学外に勉強ができるカフェやみんなで食べに行くときの飲食店の選択肢がほしい。

将来保育園を建てたくて、保育園無償化などの制度について名寄で実施していることを知りたい。また、保育について海外で研修することがあればいいと思う。

●保育園に関する情報を提供する。(国や市の助成制度など)

出身地(道外)には火力が高いごみの焼却施設がある。今後施設の建設に使うお金をごみ処理施設建設に使えばいいと思う。近隣のまちから委託を受けられれば収入にもなる。

★進路について

名寄は障がい者の施設や事業が充実しているので、これを前面に押し出し、学生も参加できるようにになったらお互いに良い影響があると思う。

名寄は保育のまちというイメージがなくて、社会保育学科の人が就職できる場所が思いつかない。就職先も病院ならあるが。名寄の保育ならここというのがあればと思う。

名寄の保育所・幼稚園を一切知らない。知っているのはひまわりランドだけ。看護は東病院、市立病院で実習するが、社会保育学科は実家から通える範囲内での実習になるため市内でのインターンシップ、研修があれば学生も名寄市に残りやすくなるのでは。

●名寄市内の保育所・幼稚園で実習を受け入れられないか。

奨学金を借りているので、返済をサポートしてくれている県や市を探していて、今年から礼文町が保育士のサポートしている。公務員志望でいきたいが、名寄だと奨学金支援がない。

試験が複数回あれば名寄市も受けようかなと思っている。看護学科で市立病院に就職すれば卒業後 3、4 年働くと奨学金免除の制度が利用できるが、他の学科にはない。名寄市では支度金 10 万円はあるが、奨学金支援は 2/3 補助があっても公務員は対象外である。奨学金返済に手厚い補助をしてもらえれば名寄で定住していいと思う人が増えると思う。